

# 「この本いいよ！」

～島根の高校生・高専生おすすめの一冊～

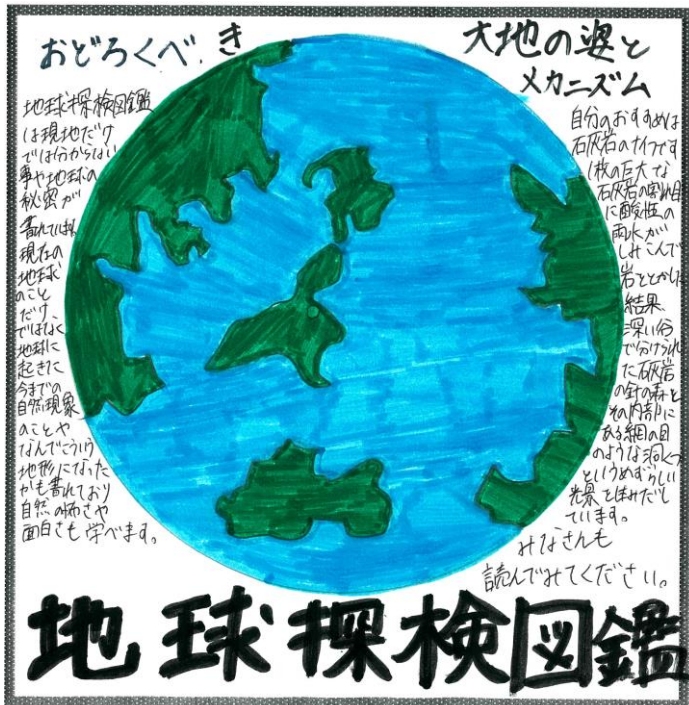
島根県の高等学校・高等専門学校および特別支援学校に通う生徒の皆さんがおすすめる本を、すてきなイラストやコメントとともに紹介します。

【展示場所】 島根県立図書館

【展示期間】 令和5年11月3日～令和5年12月3日

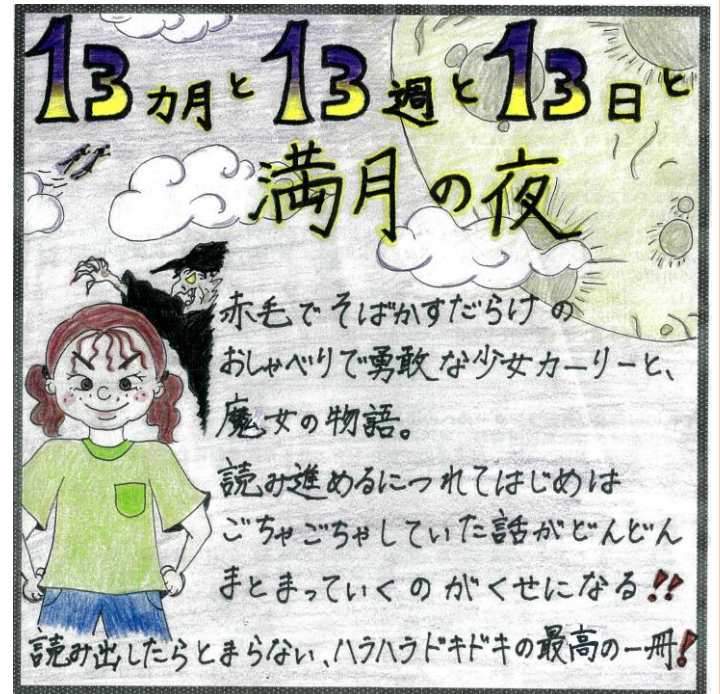


『ビジュアル地球探検図鑑』（ジョン・ウッドワード／著）



(1年 神尾)

『13カ月と13週と13日と満月の夜』（アレックス・シアラー／著）



(1年 りんご)

『ベスト』（カミュ／著）

発見から数年経った今でも感染者が多く、マスクやリモートで行われるようになった会議や飲み会など、私たちの生活をがらっと変えてしまった新型コロナウイルス。当時、世界中でここまで大きな影響が出るとは思いもしなかったが、こうなることをまさに予言していたと言われる本がある。

それがカミュの書いたベストだ。1969年に発売されたこの本は、アルジェリアのオラン市でベストという感染症が拡大し、人々の生活が大きく変わっていくという話だ。

このオラン市は、感染が拡大したことによりロックダウン状態になり、そんな中での医師のリウーを中心とした生活が書かれている。その生活というのが、コロナ禍でロックダウンした町での生活にとってもよく似ていることから、この本は予言していると言われている。コロナ禍を生きる私たちにとって共感できる部分が多々あり、読んでいる内に引き込まれるこの本を読んでみてはどうだ。

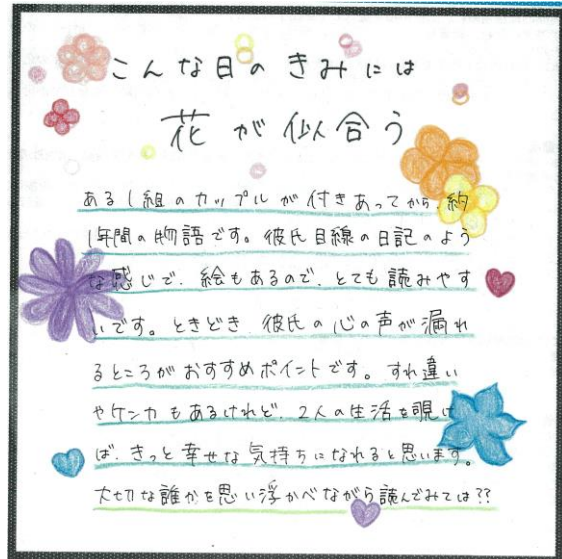
(3年 S・F)

『ネコのキモチ解剖図鑑』（服部幸／監修）



（1年 たび）

『こんな日のきみには花が似合う』 蒼井ブルー／著



（1年 れもん）

『とりかへばや物語』（鈴木裕子／編）



（2年 岩本理沙）

『か「く」「し」「ご」「と」』（住野よる／著）



（1年 Amy）

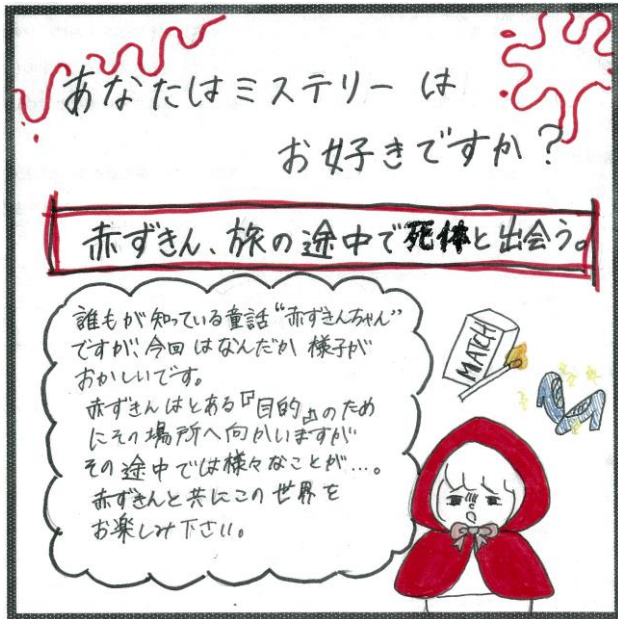
『アフターダーク』（村上春樹／著）

深夜、都会のあるファミレスでパーカーとブルージーンズという服装で熱心に本を読んでいる女子大学生・浅井マリがいた。そんなマリのもとにひとりの男性が近づいて声をかける。そして彼女は近くで起きた事件の手伝いをするようになり。。

人物どうしのやりとりや会話の雰囲気ひとつひとつが映画っぽくて読み終わったときの満足感は忘れられません。村上作品といえば「ノルウェイの森」や「海辺のカフカ」などが注目されがちですが、僕はこの本を推します。ほんとに素晴らしい作品なので、ぜひ読んでみてほしいです！！

（1年 ダニエル）

『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』（青柳碧人／著）



(1年 07)

『黒蜥蜴』（江戸川乱歩／著）



(3年 在りし日の山羊)

『殺人出産』（村田沙耶香／著）



(1年 マイケル)

『左手一本のシュート』（島沢優子／著）



(1年 Ebi H)

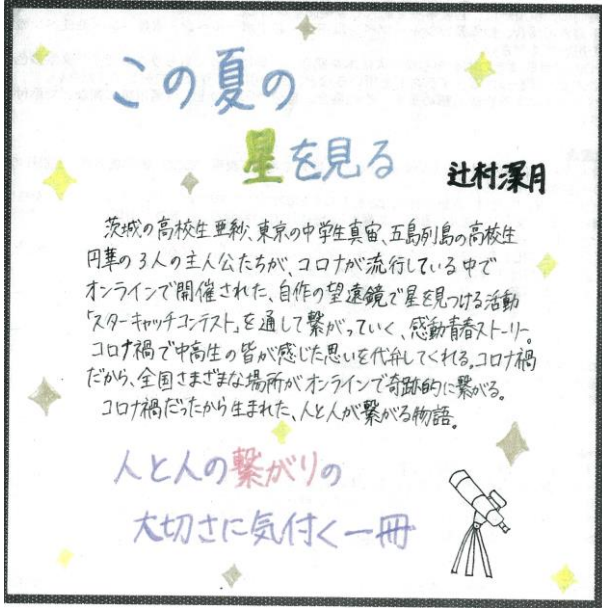
『カラフル』（森絵都／著）

どんな本？ 罪を犯して死んだ記憶のない魂。その魂は輪廻のサイクルから外されるが、とある天使から再挑戦のチャンスが与えられた。再挑戦を達成すると輪廻のサイクルに戻る！あまり乗り気ではないがやることに。その魂は再挑戦を達成することができるのか？

魅力！ この本は2周できます。初回で読んだとき、2回目で読んだときで、違う見方ができます。そして、主人公は記憶がないのですべて知らないこと、つまり読者は主人公と平行しながら物語が進みます。感情移入しながら読むのもひとつの魅力です。

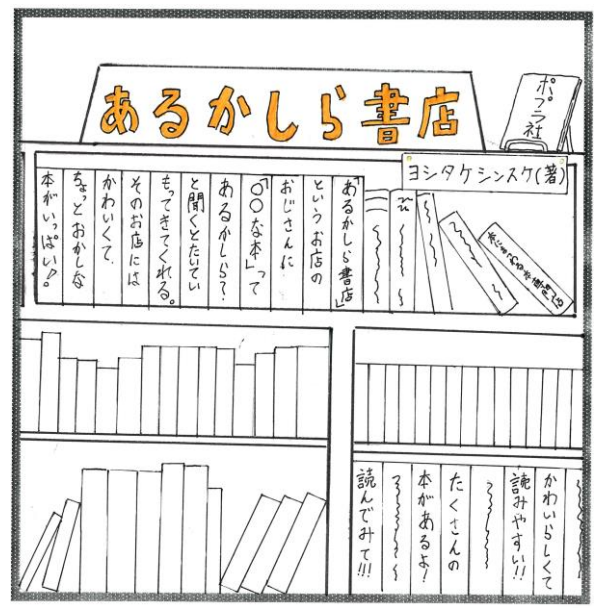
(1年 T. T)

『この夏の星を見る』(辻村深月/著)



(1年 H. F)

『あるかしら書店』(ヨシタケシンスケ/著)



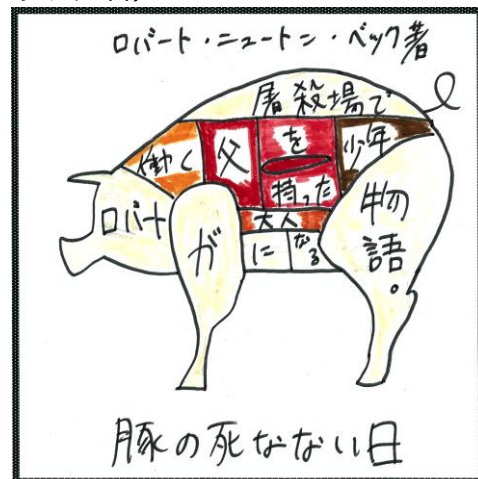
(1年 ななみ)

『空色ヒッチハイカー』(橋本紡/著)



(1年 M)

『豚の死なない日』(ロバート・ニュートン・ペック/著)



(3年 らんちう)

『ラブカは静かに弓を持つ』(安壇美緒/著)



(3年 T. Y)

6校から71作品の応募がありました。  
 たくさんのご応募ありがとうございました。  
 そのなかから、18の作品を紹介します。  
 展示図書は、貸出中や未所蔵のため、並んで  
 いないものもあります。